

研究タイトル：

自律した人工アマモ場の再生技術の確立を目指して



氏名： 中野陽一 / NAKANO yoichi E-mail: ynakano@ube-k.ac.jp

職名： 准教授 学位： 博士(工学)

所属学会・協会： 日本水環境学会、化学工学会、土木学会、廃棄物資源循環学会

キーワード： 藻場再生、湖沼浄化、廃液処理

技術相談
提供可能技術：
・人工干潟、藻場再生技術
・湖沼浄化に関する技術
・廃液処理に関する技術

研究内容： 自律した人工アマモ場の再生技術の確立を目指して

種子供給でリンクされたアマモ群落間の種子の輸送機構を解明することによって、遠隔地から常にアマモの種子を供給されるような場所を人工造成地の選定することで、持続的にアマモ群落を維持する人工造成が可能になると考えられる。

本研究の目的は、種子供給でリンクしたアマモ群落間における相互維持機構を明らかにし、種子供給源となる種母のアマモ群落を特定し、種子供給源を重点的に保全することで、地域全体のアマモ群落の保全方法を確立することである。

また、種子供給リンクを考慮に入れた人工アマモ場の適切な造成地の選定にも応用することを目指す。アマモの種を供給できるアマモ場を種母とし、そのアマモを資源管理することで、周辺海域内のアマモ場を間接的に保護することを検討した。本研究の目的は、広島県竹原沿岸、生野島、船島周辺における、種母となるアマモ場を推定することを目的とした。現場調査により、生野島を中心とする種子移動経路、種子保有量、マイクロサテライト分析により推算できた。生野島の種子は対岸の竹原市沿岸部に種子供給よりも、船島周辺の浅場があり、夏はアマモが繁茂しているが越冬出来ない単年生のアマモ場に対して、生野島の湾内のアマモ場が種母となる可能性が示唆された。

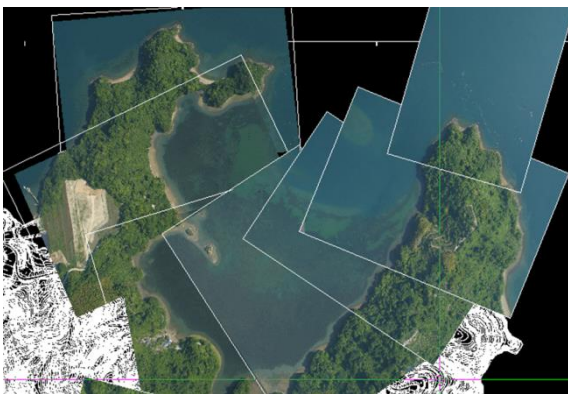


図1 生野島アマモ場の画像解析による面積、種子保有量の推定

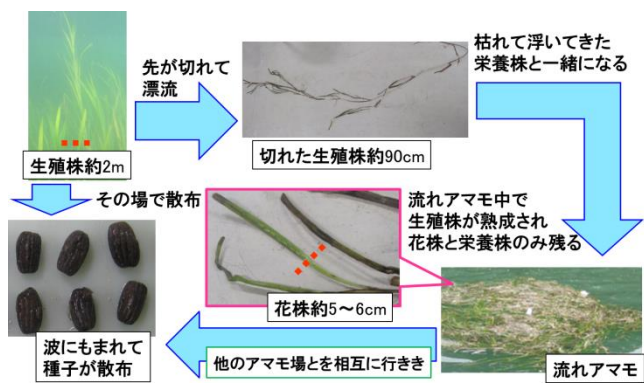


図2 生野島周辺の種子の散布状況

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)	